



城北

板金の清水口 勝さん

令和元年 5 月 1 日 現在	
総世帯数	3,674
総人口	7,847
男	3,723
女	4,124

戸建て住宅が立ち並ぶ蟻ヶ崎北の一角からコンコンと銅板を叩く調子のいい音が聞こえてきます。音の主は、清水口勝さんで、今年も秋の「ふれ愛まつり」に出品する作品

作りが始まりました。清水口さんの作品はペンチや木槌や糸鋸などを使って、銅板を切ったり曲げたり丸くしたりするなどしたおもちゃ風の本物そっくりの置物です。

清水口さんは、学校を卒業した後一旦は民間会社に就職しましたが、縁あって職業訓練校の板金・溶接の講師になりました。そして、生徒に教える傍らご自分の技術を高めるとともに孫のおもちゃ代りにと置物の作品作りを始めました。作品作りは、まず発想を基に設計図を書き、一枚の

銅板から数種類の道具を使って大小様々な部品を作り出して組み立てたり、バーナーを使って溶接したりします。

こうしてこれまでに作った作品は約百点で、チンチン電車を始め水車小屋や西洋のお城、ラピュタの飛行船などの他小さいものではトンボや蝶々などの昆虫、ブローチやペンダントなどで、玄関や居間に所狭しと並べられ訪れたお客を迎えています。

このうち、水車小屋は子どもたちの社会科の一助にと開智小学校からの要望で学校に飾られています。

従来雨どいやバケツなどは職人の手作りが主流で、技の巧拙が競われたものでしたが、機械化が進んだ現在では、これらも機械で作るようになり職人の技は必要なくなりつつあります。

また、ラピュタの飛行船のような丸みを出す木臼といった用具や焼きなましといった用語なども忘れられようとしています。

清水口さんは、機械化が進んだと言っても、機械ではできない手作業の技術も有り、これを残したい、と話しています。

沢村児童センターオープン

蟻ヶ崎児童館が今までと反対側の沢村地籍に「沢村児童センター」と名称を変えて、4月1日にオープンしました。

児童館は昭和46年(1971)に建てられましたが、土砂災害特別警戒区域に指定されたところから移転とともに建て替えが必要とされてきました。

新しい沢村児童センターは、広さが児童館の2倍の440㎡になり1000人の児童の受け入れが可能になりました。

センターでは、放課後に留守家庭となる児童を預かるほか幼稚園や保育園の入園前の幼児と保護者を対象にした事業などを行う事に



なっています。訪れた子どもたちは、新しく広くなった遊戯室で遊んだり、宿題をしたりしています。また、近くには沢村公園があり子どもたちの恰好の遊び場となっています。

城北公民館 開館20年 記念事業委員会発足

城北公民館が開館して20年になるのを記念して、来年3月に記念事業を行うことになり、実行委員会が発足しました。実行委員会では、日程や記念式典の外、講演会や記念誌の発行などを予定しています。

城北の花フェスタ



「花いっぱい運動」の発祥の地の松本市を中心に今年初めて「信州花フェスタ2019」が6月16日までの予定で開かれ、町にはいつもにも増して花が溢れています。

そんな中、蟻ヶ崎北公民館の前庭花壇にも赤や黄色の花が咲き乱れ、「城北の花フェスタ」として行きかう人の目を楽しませています。

この花壇は、地区の花壇クラブの皆さんが松本市か

ら配布された花と地区で購入した花を5月始めに植えただけです。

「花いっぱい運動」は、昭和27年に旭町小学校から始まった運動ですが、蟻ヶ崎北町会ではこれに呼応した個人が始めた花壇作りから次第に仲間が増え、いまでは花壇クラブとして活動しています。こうした活動が認められ、

花いっぱい運動などで数多く表彰されていますが、花壇クラブも現在メン

バーの高齢化が悩みの種です。しかし「花づくりをもっと学びたい」「花づくりを通して体を動かし、心身共に健康でいたい」「花を見て喜んでもらいたい」などメンバーの「城北花フェスタ」に掛ける強い心が活動を続けさせています。

こどもの日



入学式

入学式

